

2025年(財団2024年度)NCF空間ディスプレイアワード 受賞作品講評

<最優秀賞 2件>

Aw 2537

【作品名】 我は拡張する、故に我々は在る

【受賞者名】 福田羽和 (フクタハワ)

【大学・学部】 大同大学工学部建築学科

【賞金】 10万円

【講評】

かつて流行したコーポラティブ住宅の現代版であり、発想は古くからあるが、集合住宅の個人の領域を少しずつ他者へ提供し共有空間をつくるという新味ある提案。構成力があり、発想は面白く、洗濯家や分別家など今日的な視点もあり、中間領域に生活があふれて見えてくるところも生活ディスプレイとして評価できる。

Aw 2539

【作品名】 工場を穿つ -味噌の伝統をアーカイブする新しい工場建築の在り方-

【受賞者名】 河崎充紘 (カワサキヒロ)

【大学・学部】 東京電機大学未来科学部建築学科

【賞金】 10万円

【講評】

衰退をたどる長野県諏訪市の伝統産業「味噌工場」に着目した地域活性のために工場を地域に開くという社会性が高い提案。工場を開放して見える化し、公共空間を増やして、企業秘密である工程を見せるという斬新な発想である。さらに、地域の暮らしに繋げて時間経過とともに徐々に作るプロセスが生活ディスプレイデザインとして評価できる。

＜優秀賞 3 件＞

Aw2502

【作品名】 輪島市復興計画 – 代謝する建築 –

【受賞者名】 佐々木 菜摘美 (ササキナツミ)

【大学・学部】 京都女子大学家政学部生活造形学科

【賞 金】 5 万円

【講 評】

震災後の輪島市復興計画として、仮設建築を転用し、生活・職人・産業の視点から有機的な空間を創出しようとする提案。さまざまな工程がある輪島塗ならではの、小さな空間が連なり集合する工房のあり方、ユニットのしくみまで考案されてコンセプトがよく、生活再建に併せて少しずつユニットを加えることも生活ディスプレイデザインとして評価できる。

Aw2534

【作品名】 騒音から奏音へ-住工混在地域における音風景の提案-

【受賞者名】 杉山玲那 (スギヤマレナ)

【大学・学部】 大同大学工学部建築学科

【賞 金】 5 万円

【講 評】

人の生活における不利益な騒音問題に着目し、町工場（まちこうば）の騒音を地域の資源と捉え、空間構成に取り込んでいる点が独創的な提案。問題意識が明快で着実な実験結果のもと、その音を違った視点から捉え直すことで、新たな音風景を出現させる、という発想が生活ディスプレイデザインとして評価できる。

Aw2546

【作品名】 海のある埼玉-更地にしない雑居街区再生-

【受賞者名】 林 芽生 (ハヤシウブ)

【大学・学部】 東京電機大学未来科学部建築学科

【賞 金】 5 万円

【講 評】

雑居街区の再生と新陳代謝を促す「海のレイヤー」と呼ぶ手法の提案。「海がない」ことが埼玉をネガティブに語る際の常套句だが、雑居ビル群を島と捉え、その隙間に応募者が「海」とよぶ共有空間を挿入するという発想は大変面白く、都市の表裏の意識がかわる独創性が都市ディスプレイデザインとして評価できる。

財団年度 2024 年度 (2025 年)

公益財団法人乃村文化財団

<奨励賞 4件>

Aw2533

【作品名】 都市の劇場－仮想境界による狭間の改修－

【受賞者名】 小木曾 カ斗（コギソリキト）

【大学・学部】 大同大学工学部建築学科

【賞金】 3万円

【講評】

人の活動が建築機能や用途ごとに分断されていることに対する、新たな視点での都市空間の提案。デザインに関する既存の著作や方法論を少しずつコラージュしており、それぞれの小空間にこだわりが見られる。都市の「隙間」の捉え方、新しい劇場のあり方が独創的で、構造もふくめて空間のつくりかた、行為を誘発する工夫も都市ディスプレイデザインとして評価できる。

Aw2535

【作品名】 25.1kmに暮らす－地域鉄道駅再編計画－

【受賞者名】 西尾晟（ニシオセイ）

【大学・学部】 大同大学工学部建築学科

【賞金】 3万円

【講評】

岐阜県恵那市と中津川市をまたぐ地域鉄道の明知鉄道線沿線地域活性化のための提案。無人駅舎を利活用する提案は有効で、広い視野、着実な調査、機能が適切である。プラットフォームを生活の場の一部として再編するという発想は面白く、個々の無人駅が新たな地域アイデンティティ空間となるアイデアも都市ディスプレイデザインとして評価できる。

Aw2536

【作品名】 海と記憶の間隙-黒島集落における海を取り戻す時層的建築-

【受賞者名】 中村來珠（ナカムラクルミ）

【大学・学部】 大同大学工学部建築学科

【賞金】 3万円

【講評】

能登半島地震により倒壊と隆起の被害を受けた輪島市門前町黒島集落に着目した被災地復興の提案。能登半島地震に向き合う作品で、よく調査分析されており、地域のしっかりしたリサーチを基にしている。特に浜の栈橋は印象的であり、そこで祭りを見せるという点が復興に繋がるというアイデアが都市ディスプレイデザインの新たな可能性につながるとして評価できる。

Aw2541

【作品名】 商いの向こう側

【受賞者名】 西村 風香（ニシムラフウカ）

【大学・学部】 東京電機大学未来科学部建築学科

【賞金】 3万円

【講評】

江東区砂町銀座商店街を題材に、衰退しつつある商店街に、地域一帯のコミュニティを再生する計画手法により、福祉施設を核とした商店街の活性化を試みる提案。ダイアグラムが秀逸である。商店街とその周辺の関係性に手を加えることで、街に変化を与えるという提案は、大きなインパクトはないが、今後の街の再生に新たな視点を提供した生活ディスプレイデザインとして評価できる。